

**経営体育成支援事業を活用した事例**  
～農業機械の大型化により作業の効率化を实践し高付加価値化に挑戦～

対象者名称	堀内由希子
事業名(年度)	経営体育成支援事業(25年度)
事業実施主体名称	岡山県赤磐市
内容	容: コンバイン(6条刈)の導入
事業費	費: 850万円(国費: 255万円)
	このほか、平成21年度新規就農定着促進事業によりトラクター、田植機を導入

## 1 事業取組前の状況(平成24年度)

### (1) 補助対象者の経営状況

- ①経営面積20.66ha  
(うち水稲12.73ha、WC S用稲・飼料用米5.63ha)
- ②堀内さんが主に農作業、農業経営に従事、常勤雇用1名
- ③トラクター(67ps×1台、34ps×1台、20ps×1台)  
田植機(6条2台)  
コンバイン(5条×1台)

○導入した6条刈りコンバイン

### (2) 導入のきっかけ

地区内農業者の高齢化による耕作放棄地の増加が懸念される中、平成21年度新規就農定着促進事業を活用し、経営面積11haから営農を開始。

丁寧な肥培管理を行ってきたことから、農地の出し手からの耕作依頼が殺到した。しかしながら、従前の5条刈りコンバインでは、効率的作業が限界に達したため、さらなる経営面積の拡大を行うためには、高性能大型機械の導入により作業の効率化を図ることが不可欠であった。



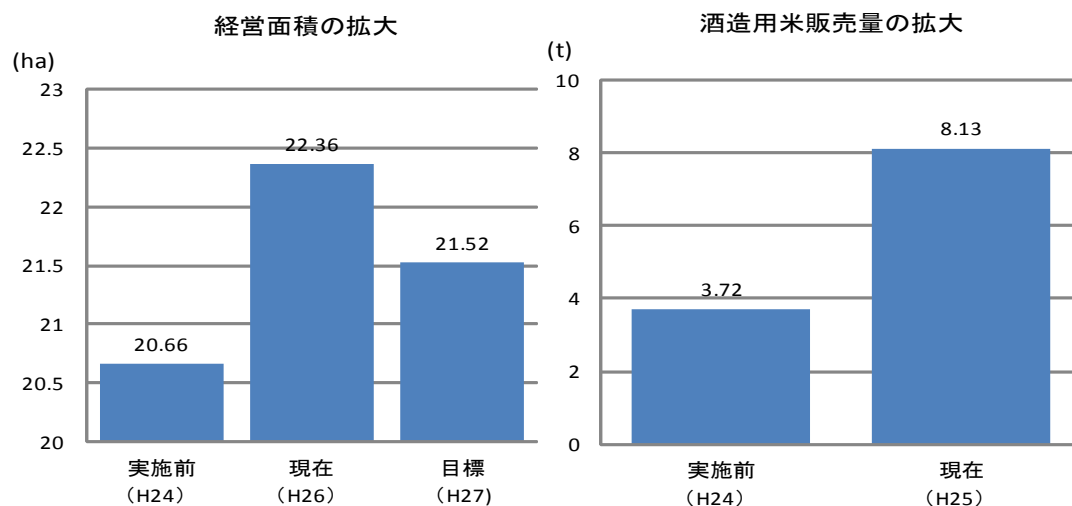
## 2 取組の概要

平成25年度に刈り取り作業の効率化、適期の作業を目指し、本事業により大型のコンバインを導入した。導入により作業効率が上がったことから、経営面積が拡大した他、収穫等栽培に手間がかかるものの販売単価の高い酒造用米(雄町)の作付面積の大幅な拡大に取り組むことが可能となった。

また、米の直接販売にも取り組んでいる。

### 3 経営改善の効果

- (1) 平成26年度には経営規模を22.6haに増加させており、27年度の目標を（21.5ha）上回っている。
- (2) 酒造用米の販売量は、作付面積の増加により平成25年度には8.1 t となり、事業実施前と比べ4.4 t 増加している。



### 4 成功の要因

- (1) 農地の貸し手からも信頼できる担い手と認められているが、中心経営体に位置付けられたことにより、より一層地域の信頼を得て順調に農地集積が進んでいる。
- (2) 旧赤坂町で作付けしている酒造用米（雄町）が酒造会社から高い評価を得ている。
- (3) 技術の習得について自ら積極的に情報収集している。

### 5 今後の経営改善の方向

- (1) イノシシ、シカ対策が課題となっており電柵等を拡充する。
- (2) 農地が分散しており、さらなる規模拡大には農地の集約が必要。
- (3) 特に販売単価の高い酒造用米について、品質の向上により高付加価値化を図る。
- (4) 主食用米の直接販売について、新たな販路を開拓するとともに既存の販売先との播種前契約に取り組む。
- (5) 乾燥調整施設の導入を計画しており、これにより主食用米の品質向上と新たに作業委託（乾燥調整作業）の拡大に取り組む。



○ 獣害対策として電柵とトタン囲いを設置した圃場